

ワイヤレス人材育成のためのアマチュア無線アドバイザーボード（第2回）

議事要旨

1. 日時

令和4年2月15日（火） 13:00～14:45

2. 場所

WEB会議

3. 出席者（敬称略）

（1）構成員：

飯塚 留美（一般財団法人マルチメディア振興センターICT リサーチ&コンサルティング部シニア・リサーチディレクター）、櫻田 洋一（CQ 出版社取締役兼 CQ ham radio 編集長）、高尾 義則（一般社団法人日本アマチュア無線連盟会長）、寺田 麻佑（国際基督教大学教養学部上級准教授）、藤井 威生（電気通信大学先端ワイヤレス・コミュニケーション研究センター教授）、藤原 洋（株式会社ブロードバンドタワー代表取締役会長兼社長 CEO）、三木 哲也（一般財団法人日本アマチュア無線振興協会会長）

（2）総務省：

野崎電波部長、荻原電波政策課長、翁長移動通信課長、市川電波政策課検定試験官、伊藤移動通信課課長補佐

4. 議事

（1）開会

（2）議事

・無線技術に興味・関心を持つきっかけづくり（知ってもらう）について

（3）閉会

5. 議事の経過

○無線技術に興味・関心を持つきっかけづくりについて、制度の現状等について説明。

○①アマチュア無線の体験制度について、②アマチュア無線の定義について、③アマチュア無線技士の操作の範囲に属する操作ができる資格について、意見交換。

○構成員から次のような意見があった。

①アマチュア無線の体験制度について

○小中学生のみならず高校生以上の若者にも興味を持ってもらうよう、人材育成の観点からも高校生・大学生といった範囲まで体験制度の対象が拡大されることが望ましい。

○昔は多くの小中高校でアマチュア無線クラブがあったが、今では無線につながるクラブ・部活動が減少している。クラブ活動が活発になることは、アマチュア無線を知る機会として、また理科離れからみても非常に重要。

○年齢制限はあっているが、既に開設されている常設の地域のクラブ局や会社のクラブ局でも体験運用

ができるようになれば、アマチュア無線を知ってもらうために非常に有効であるし、学校の中に無線クラブを作らなくても子供たちが体験しやすい環境ができる。

- 若者だけではなく体験局の年齢対象に関する制限をなくし、幅広い世代がアマチュア無線を体験できるようになることも重要。30、40代でも新しい技術に興味を持ったり、勉強している人もいる。体験局の取材を全国各地でしてきたが、小学校でのイベントは保護者同伴が多く、保護者のアマチュア無線に対する理解や関心がないと、子供たちは参加すらしめない。

②アマチュア無線の定義について

- アマチュア無線を研究で使えるように定義に明文化してもらえると、研究分野でのアマチュア無線の活用が進むのではないかな。
- 学校教育の場で、アマチュア無線を活用できる体制づくりが重要である。教育が定義に加えられれば、教育現場でも幅広い活用が進み、人材育成の面でも大きくプラスになる。
- アマチュア無線が教育に使用できるという規定を整備することには賛成である。小中学校ではアマチュア無線自体が知られていないような状況なので、教育現場で使われることで、興味を持つ子供が増えることは大事である。
- 大学での実験を含め様々な場で学生たちに電波を体験してもらいたいと思っている。教育・研究と一言で言っても、企業の応用研究、大学の基礎研究、個人研究と幅広い。こういうことに使っても大丈夫かといった疑問が生じないよう、何らかの基準を設けて範囲を制限、定義することも必要である。

③アマチュア無線技士の操作の範囲に属する操作ができる資格について

- 例えば第一級陸上無線技術士について、第四級アマチュア無線技士の操作の範囲となっていることについて、国際条約等の知識やモールス符号に関する知識を確認していないことが要因なのであれば、モールス符号はパソコンを使用して変換・解読しているアマチュア無線家が多いし、陸上の無線技術士含めたプロの従事者はモールス符号について理解していると考えられ、また、国際条約の知識も常識としてあるのではないかな。業務用の無線資格者を活用することで、知識や経験をもった指導者を増やすことが、ワイヤレス人材育成にとって重要である。
- 法規の国際条約やモールス符号の知識について、別途e-ラーニング等で学んでもらうことを条件にすることも考えられるのではないかな。

○全体的な意見交換

- 魅力的なコンテンツがたくさんある中で、アマチュア無線の魅力をどのように伝えていこうかが重要である。
- ワイヤレス人材育成という政策の中で、アマチュア無線による人材育成をどう位置付けていこうとよいか。
- どうすれば若い人たちにアマチュア無線に興味を持ってもらえるか日々考えている。アマチュア無線は、趣味の世界であり、プライベートな時間に無線交信をしたり仲間と交流したりするのが原点だが、今の子供、若者は、昔に比べて生活の中で趣味を楽しむ時間が持てていないのではないかな。
- アマチュア無線を活用したワイヤレス人材の育成は、電波の技術者の裾野をいかに増やすかという観点からも重要。大学生の志向や関心がインフラ技術からインフラを利用する側に移っているが、どうやって無線通信ができるかという原理への回帰が重要であり、原理的なことに対する興味を少年少女の時代からもたせるきっかけとして、アマチュア無線は非常によいと思う。スポーツ選手を育成する様に電波のエンジニアも、幼いころから電波に触れる機会があることが重要であり、その手段としてアマチュア無線が有効。戦略的に小中高校生を対象にワイヤレス人材の育成戦略を立案するとよい。

以 上